

令和4年度 長野県篠ノ井高等学校犀峽校 学校自己評価結果

企画運営委員会

学校目標（中長期目標）

- ① 基礎的・基本的な学力の定着と進路に応じた発展的学力の向上
- ② 進路実現に向けた主体的で対話的な学びの場の確立
- ③ いじめや体罰のない、一人ひとりが生き生きと活動できる学校づくり
- ④ 基本的生活習慣の確立と豊かな人間関係を構築できる校風づくり
- ⑤ 生徒・保護者・地域から信頼され期待に応えられる学校づくり(魅力ある地域キャンパス校の創造)

重点目標・評価項目観点・成果反省・改善策

評価:A十分できた Bおおむねできた C不十分である

分野	重点目標	関	評価項目	評価の観点	成果・反省	評価	向上・改善策	検討担当
進路学習指導	学習意欲を喚起するとともに、基礎学力の定着を図る授業を実践する。	①	授業「総合的な探究の時間」の取り組み 授業公開週間や授業アンケートの活用	基礎学力の伸長がなされたか。 授業アンケートなどの結果をフィードバックできたか。	「総合探究」の時間では学校の内外を問わず、教科や学年の枠を越えて幅広い学習活動を行い、生徒の「主体的」「対話的」な学びの姿勢を増進させることができた。	A	授業アンケートなどを一層有効に活用し授業改善に取り組むとともに、生徒の弱点分野を補強して、基礎学力のさらなる伸長を図る。	進路
	学習の習慣化を図り、家庭学習時間増加に結びつくような指導を継続実施する。	②	考查前学習週間、生活実態調査の活用 家庭学習確立月間の実施	生活の見直しが図られ、学習時間の伸長が図れたか。	考查前学習週間では生徒と職員が一丸となり、苦手教科の克服や基礎学力の向上に向けて真剣に取り組むことができた。	B	各学年や各教科とも連携し、基本的生活習慣の改善を図りながら、家庭学習の定着を推進する。	進路
	キャリア教育の推進と地域社会を担う人材を育成し、個々の生徒に応じたきめ細やかな進路指導を行う。	② ③	係、学年、教科の連携による進路学習指導体制の確立 面談とガイダンスの充実と、担任、教科の情報の連携 地元企業への就業体験活動の実施 すべての生徒の進路実現 マナー教育、SSTの推進	地域と連携したインターンシップへとつながれたか。 ガイダンスの実施や模試等の結果の情報連携が図られたか。	「デュアルシステム」では地元企業で就業体験を実施し、生徒の職業意識を高めた。校外での進路相談会に複数回参加し、外部の方も含めた個別面談も充実させた。「基礎力診断テスト」などの結果を職員会で示し、全職員で共有することができた。	A	担任や学年、教科担当者との情報共有を密にし、一人ひとりの生徒の進路実現を図る。また、地域住民や地元企業などとの連携を今後さらに継続的に実施し、より一層深めていく。	進路
	21世紀型学力養成に向け、自ら学ぶ姿勢を育てる授業を実践する。	①	知識注入型の授業から、知識・技能活用型の授業への転換の取り組み 授業評価の活用	ICT機器の活用や「深い学び」を授業に取り入れたか。 生徒に自ら学ぶ姿勢が見られたか。	多くの授業でICT機器を活用し、双方向型の授業を行うことで、生徒が主体的に考える「深い」学びを実践することができた。	A	ICT機器の更なる活用を図り、生徒の自ら学ぶ姿勢をさらに醸成し、「深い」学びを追求する。	進路
生徒指導	基本的生活習慣を身につけさせるための指導を日常的、継続的に取り組む。	④	身だしなみやマナー、挨拶等の指導を粘り強く、保護者にも理解を得ながら行う。 校内美化に向けた生徒、職員一体の取り組み	身だしなみやマナーなどの向上が見られたか。	衣替えの時期を中心に、身だしなみや服装について生徒に徹底させることができた。 また、校内美化活動については、生徒職員で協力して校内を整った状態に保つことができた。	A	身だしなみやマナーについては、職員だけでなく生徒同士での呼びかけをするよう方法を検討していく。	生徒部
	いじめのない心身ともに健康で安全な学校生活を送れるよう、個々に応じた指導を行う。	③ ④	生徒の週番活動、職員の校内巡視の実施 ソーシャルスキル向上の視点を取り入れた指導の取り組みや職員研修の実施	いじめや体罰のない、健康で安全な学校づくりが進められたか。	安心安全な学校の環境を維持するため、職員の校内巡視や、生徒の見守りを徹底することができた。	A	次年度以降は職員研修の回数を増やして、生徒が安心して生活できる学校作りの参考としたい。	生徒部
特別活動	クラブ活動や生徒会活動を積極的に支援する。	③ ⑤	クラブ加入の促進と、クラブ指導の充実 琅鶴祭など生徒会活動の活発化	生徒会活動、クラブ活動の活性化が進められたか。	多くの生徒がクラブに所属し、積極的に活動できた。また、生徒会活動においても、文化祭を中心に生徒が活躍できる場を設けることができた。	A	地域との連携の機会が増やせるよう模索していく。	生徒部
	地元小中学校や地域との交流活動を進め、連携を図る。	③ ⑤	授業「総合的な探究の時間」での確かな成果 地域での活動を通して、地域に信頼される学校を目指す	交流活動や地域での活動が地域の信頼に結びついたか。	小学校の遠足行事(4月)、体験入学での探究成果発表(9月)、犀峽セミナーでの外部への成果発表(11月)を実施できた。特にセミナーでは商工会議所会長様からご好評をいただき、次の発表の機会の場をいただいた。	A	地元商工会議所とのつながりを次年度に生かし、次年度はアイデアを実行する段階へとつなげる	探究
学校運営	学校だより等による保護者地域への情報発信を行い、連携を図る。	⑤	学校だより等の定期的な発行 公開授業、学習発表会等への参加者を増やす取り組み ホームページを用いた情報の発信	保護者や地域へ本校の取り組みが十分伝えられたか。	隔月学校だよりを発行した。 学習発表会の対面参加とWeb参加を行った。 定期的にホームページを更新した。	A	学校だよりとHP更新を継続し、コロナの感染対策をとりながら、参加者の増加に取り組む	教務